

「何のために学校が存在するのか？」の問いに、ドギマギ

教師を目指す若者から、次のようなメールが届いた。

【 最近、研究室に行けば、考え方が甘い！本当に先生になれるの？と冷やかされている毎日です（笑）。

先生に聞きたいことがあります。それは、「何のために学校が存在するのか？」ということ。

そして、「教師は子どもたちに、何を教えていかねばならないのでしょうか？」先生、ぜひヒントをください！ 】【

こう実にシンプルでストレートに問いかけられると、ドギマキする。

こちらにも実にシンプルにストレートに、次のように返信した。

【 学校とは、場所、建物をいうのではなく、教育活動が行われるところが学校。だから、林間学校、訪問教育、フリースクールという言葉もありますよね（育児とて、広義では教育活動ということになります）。

似たような話に、「教会」があります。

クリスチャンのある知人のに聞いた話ですが、「教会」というと、我々は直ぐに建物である「教会」をイメージします。

本来の意味は、道で出会った2人が信仰に纏わる話をしていけば、その状況も「教会」と云っていいとか。

つまり、教育活動とは何かを検証せず、今は学校という建物、組織、システム、また、学習指導要領というマニュアル、等々の前提から、往々にして教育活動を考えがち。それ故、教育が形骸化しているともいわれています。

さて、あえて「教育活動」を一言でいえば、その子どもの「生きるエネルギーを支援すること」であり、また、「互いに育ち合う活動」とも云えます。

この教育の本質的視点を、日頃から意識してくださいね。

「与えられる知識は応用が効かない。求める知識は知恵となる。」という言葉がありま

す。

知識は生きるエネルギーとして応用されてこそ、知恵といえます。  
丸暗記して試験が終われば忘れる知識は、知恵になりませんよね。

何かヒントになったかな？

大学とは、自分の知識、知恵を総動員して、相手に理解させ、納得させる論理的表現力を培うところでもあります。

また、ことばは丁寧に、顔に笑顔をやさしく、物腰やさしく伝える技も身につけましょう。

多くの文献に目を通して知識を増やし、知恵になるように思考・思索し、自分の言葉で語る表現力を身につけてくださいね。 【

みなさんからも、何かヒントをお聞かせいただければ幸いです。

(2006年4月10日 記)

追伸：みなさんからいただいたヒントは、「雑学 BN」の「メル友・コメント等関係(Ⅱ)」P  
の 2006.04.15.「『何のために学校が存在するのか？の問いに、ドギマギ』へのコメント」に  
掲載しましたので、参照ください。